

## ♪ 千葉アコーディオン「花とアコーディオンコンサート」ぶらり訪問記 ♪

日時：2016年10月2日(日)14:00開演 会場：三陽メディアフラワーミュージアム

私たちがよく聴きに行く都会のコンサート会場とは趣がちよつと違うので、まずは会場の周りの様子から紹介してみます。最寄りのJR「稲毛」駅西口から会場までまっすぐに延びる、歩くと30～40分かかる道路の両側の歩道は、東日本大震災の年の秋に開催されたコンサートを聴きに来たときには液状化現象で大きく波打ちいたるところで亀裂が出来ていました。現在アスファルトで綺麗に舗装され、コスモスなど秋の草花が植栽され



ています。また、会館入口前の庭園には花壇で仕切られた草花が今を見ごろと咲き誇っています。もちろん会館内も、旧称「花の美術館」と言われただけあって様々な作品の展示、さらに、家族連れで子どもたちも楽しめるように考えられていて、メルヘンの世界へ飛び込んでいきます。道路から一步庭園に入ると時間の流れが少しゆるやかになった気さえます。

さらに、会場から100メートルも歩くと稲毛海岸に出ます。当日は天候も良く砂浜では家族連れが目立ち、沖にはたくさんのヨット愛好者が潮風を楽しんでいました(写真は、ヨットがわかるように近くに合成)。



さて、コンサートの方は、こちらで写真で紹介いたします。私たちがよく見るコンサートは、壁で囲まれ扉で仕切られたホールが多いと思います。ですが、この演奏会場は解放された空間で、天井も吹き抜けです。ステージの頭上には渡り廊下が通りミュージアムを訪れた家族連れや若者たちが見学しながら通り過ぎます。館内は子どもたちが遊べるように作られているので周りでは子どもたちの話声、笑い声も聞こえます。

また、これも千葉アコの特徴だと思っていますが、通常お客さんは開演ベルが鳴るまではおしゃべりなどして待ちますが、お客さんがちらほら座り始めると、ミュージットの音色が大好きとおっしゃる弾き手が登場し片隅で静かにやわらかい音色で「私の回転木馬」など開演間際まで生演奏します。以前聴きに来たときもそうでしたので恐らく恒例になっているのでしょう。なので、早く来て座っていてもおしゃべりする人は少なく開演までしばし静かにつろいでいる様子です。(左の写真)



プログラムは、途中休憩なしで1時間半ほど通しての演奏でした。こちらも順を追って写真で紹介します。



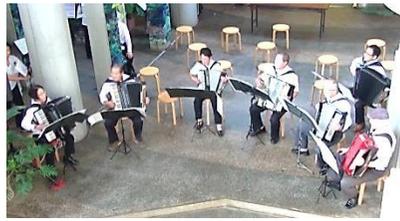
オープニングの様子(右)と客席の様子(左)



オープニングは「サウンド・オブ・ミュージック メドレー」(全員合奏:指揮 森陽介氏)▲



サン・トワ・マミー



太陽がいっぱい



チャルダッシュ:大西さん



『この会場での演奏は今年で9回目になります。定期コンサートのようになっていて私たちの励みになっています。こうやって毎年声を掛けていただいで皆さんに集まっていただくのはこの上なく嬉しくありがとうございます』

『50年のベテラン演奏者、2年、3年という経験の浅い演奏者のそれぞれの力量に合わせたパートを組んで頂いて、教室のメンバー全員が参加できるようにしています』と挨拶するサークル代表の神山氏。



私の回転木馬(写真左)  
愛の挨拶(写真右)



ジュピター



おぼろ月夜



山小舎の灯



翼をください、後ろでは歌



歌詞を見ながら一緒に歌うお客さん



奥様お手をどうぞ:和田さん



『板前さんで寿司を握っていた方で70代になって始めて楽譜を読む方も参加しています。価値観も違う、違った経験を持った人

たちが集まって一緒にやることの楽しさを味わっています』と挨拶する指導・指揮を執る森陽介氏。写真右は最後の演奏「日本民謡メドレー:会津磐梯山、佐渡おけさ、他3曲」の様子。人数も多いけれど、みなさん自信を持って、音もつながりエネルギッシュな演奏が印象的でした。(文責:乙津)



## ♪ 「プラチナ音楽祭 2016」Bブロックを聴いて ♪

日時：2016年9月3日(土)11:48～13:20 会場：ミューザ川崎シンフォニーホール

プラチナ音楽祭は、A、B、C、Dと4つのグループに分かれていたけれど、予定もあって南部教室が出場するBブロックだけ聴いて会場を後にしました。

プログラムは、「琴」の演奏(女性11名)、コーラス(50名以上が1団体、25名が1団体、40名近い団体が1団体)の3団体、オカリナ合奏1団体(15名)、ハーモニカ合奏(20名弱)そして、南部アコーディオンサークルは11名での合奏でした。アマチュアの人達が熱心に練習を重ねてステージに立ったであろうと思いながら聴きました。広々としたホールで声や音を響かせるのは、きっと気持ちよかったです。

コーラスより楽器演奏の方が聴きごたえがありました。特にオカリナは大変良く音が響いて、のびのびと聞こえました。元々、自然の中が似合う楽器です



ホール内のつくり▲

から、このホールにあっていいと思います。

アコーディオンは重くて大変だったでしょう。1曲目の「山小舎の灯」は大変懐かしい曲でしたから、演奏が始まるとすぐ、席のあちこちで小声で口ずさむ人がいて、聴く人の心をとらえたようです。

2曲目の「愛の賛歌」も馴み深く優しい曲、きれいですが、私としてはもう少し感情豊かに楽しめたらと思いました。

アコーディオン弾きというと、街角で一人で興に乗って盛り上げたり、しみりと耳を傾けさせたりと様々なスタイルが浮かびます。演奏する人が楽しんでいる様子が伝わるといいですね。

このステージには初参加ということですので、又このような機会に向けて練習を続けて欲しいと思います。音楽や映画は心の栄養だと近頃は特に感じます。大きな感動はもとよりほんのささいなことに嬉しくなるのも楽しみの一つです。(C・H)



## ♪ 「横浜アコーディオン愛好会2016発表会」ぶらり訪問記 ♪

日時：2016年10月10日(月・祝)13:00～ 会場：横浜青年館「多目的室」



通り入口のウェルカムボード▲

横浜アコーディオン愛好会は、会のメンバーと会主催で毎年募集するアコーディオン教室に通って練習している生徒とで構成されています。

ですから生徒の中には初めて人前で演奏する方など緊張も感じられたけれど、両手で弾けるようになった嬉しさが演奏に出ていました。良く練習されている様子が伝わってきます。

プログラムは、1時間半程度ということで休憩はありませんでした。オープニングの合奏に続き、初めに教室生の中から5人が「月の砂ばく」「希望のささやき」「サンライズ サンセット」など独奏。続いて愛好会の

「来年は50周年を迎えるのできょうは予行練習を兼ねて行きます」と、会代表の挨拶でした。

メンバーから6人が「カルメン・シルバー」「小さな花」「チャンキキおけさ」など独奏と、二重奏で1組演奏。その後に講師演奏があり、後は、合奏が5曲続きます。合奏の最後は「日本民謡メドレー」でした。

この最後の曲は、開幕で演奏された「80日間世界一周」とともに愛好会のテーマ曲となっているとても人気のある演奏とのことでした。

地元の高齢者施設等の他、東北との交流も3年続けているとのこと、演奏する機会も多いのでしょう。そのため積み重ねてきた合奏のレパートリーも豊富なのところが魅力です。50周年が楽しみです。(乙津:記)

